

# 第 10 回拡大 ASEAN 国防相会議（ADMM プラス）の開催

地域研究部長 庄司 智孝

2023 年 11 月 16 日、第 10 回拡大 ASEAN 国防相会議（ADMM プラス）がジャカルタで開催された。ADMM プラスは、東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟 10 カ国と域外 8 カ国（日、米、中、印、露、韓、豪、ニュージーランド）の国防大臣が一堂に会する年次会議であり、参加国の国防当局間の協力枠組みでもある。同会議は、2006 年に設立された ASEAN 国防相会議（ADMM）の拡大バージョンとして、2010 年に発足した。開催頻度は当初 3 年に 1 回であったが、現在では毎年秋頃に当該年の ASEAN 議長国で開催されている（2020 年と 21 年はコロナのためオンラインでの開催）。

---

## ADMM プラスの発展と現状

---

ADMM プラスは、ASEAN 加盟国と域外国との防衛協力の枠組みとして発展してきた。ADMM プラスが従来の多国間安全保障対話枠組みと大きく異なる点は、専門家会合（EWG）の制度にある。EWG は、参加国の国防当局間で非伝統的課題に共同で対処することで、信頼醸成と地域の安定化を図ることを目的としている。ADMM プラス発足当初、5 つの分野（HA/DR、軍事医学、海洋安全保障、対テロ、PKO）の EWG が設置されたが、その後地雷処理とサイバーの EWG が創設され、計 7 つとなった。各 EWG は、当該分野における具体的な協力を追求し、共同演習や共通の標準作業手順（SOP）の作成作業を行っている。

EWG では、様々な非伝統分野に関する会合やセミナー、演習が行われ、そこには域外国による資金やノウハウが提供された。その意味で、EWG 制度は域外国の ASEAN 諸国に対する能力構築支援の場として機能した<sup>1</sup>。

しかし、信頼醸成については、この枠組みははかばかしい進展を見せることはなく、むしろ米中対立の激化を背景として、域外国を中心として対立の場面が目立った。例えば、2015 年の第 3 回 ADMM プラ

スでは、米国が共同宣言に南シナ海問題に関する文言を挿入しようとしたのに対し、中国がこれに強く反対した。結果議論は紛糾し、共同宣言は出されることはなかった<sup>2</sup>。

今日では、他の ASEAN 中心の枠組み同様、ADMM プラスも域内外の情勢をめぐって動揺を来たしている。2021 年 2 月にクーデターによって権力を奪取したミャンマーの軍事政権は、ADMM（プラス）への参加資格を停止されている。またウクライナ侵攻に端を発するロシア（と中国）と日米間の摩擦もあり、参加国が一体となって協力を推し進める雰囲気づくりは難しくなっている。

---

## 日本の積極的関与

---

日本は、発足当初から ADMM プラスに積極的に関与してきた。日本の積極姿勢は EWG の共同議長を務めることに顕著に表れた。第 1 期では防衛医学 EWG でシンガポールと共同議長を務め、第 2 期ではラオスと HA/DR の共同議長を務めた。第 3 期に共同議長を務めることはなかったが、現在の第 4 期ではベトナムと PKO の共同議長を務めている。EWG で共同議長を務めることは、ADMM プラスにおける日本のプレゼンス向上にも寄与している。

ADMM プラスと並行して、「ADMM プラス 1」ともいえる日 ASEAN 防衛担当大臣会合も行われている。同会合は 2014 年に始まり、日 ASEAN2 者間の対話と協力の枠組みとして機能してきた。2016 年の第 2 回会合では、日本の対 ASEAN 防衛協力の指針である「ビエンチャンビジョン」が発表され、2019 年の第 5 回会合では「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP) のビジョンを反映した「ビエンチャンビジョン 2.0」が発表された。そして今回の第 8 回会合では、日 ASEAN 友好協力 50 周年に際して「防衛協力強化のための日 ASEAN 大臣イニシアティブ」(JASMINE) が示されるなど、同会合は日 ASEAN 防衛協力の重要な節目の場となってきた。

---

## 第 10 回 ADMM プラス：WPS に関する共同声明を採択

---

今回の ADMM プラスには、ミャンマーを除く ASEAN 各国の国防相のほか、宮澤博行防衛副大臣、ロイド・オースティン米国防長官、景建峰・中国人民解放軍統合参謀部副参謀長、ラージナート・シン印国防相、アレクサンドル・フォーミン露国防次官らが参加した。またオブザーバーとして、ASEAN 加盟が決定している東ティモールの国防相が参加した。

中東やインド太平洋の地域情勢を含む意見交換の後、第 5 期（2024～2027 年）EWG の新議長組合せ

が発表され、日本は、海洋安全保障 EWG の共同議長をフィリピンと務めることが決定した。

また会合では、女性・平和・安全保障（WPS）に関する ADMM プラス共同声明も採択され、第 5 期の EWG の活動で WPS の各アジェンダの実現に向け、取り組みを加速させることで参加国は合意した<sup>3</sup>。ASEAN 域内外での様々な摩擦にもかかわらず、WPS という新たなアプローチにおいて共同声明が採択されたことで、ADMM プラス、そして議長国インドネシアの面目は保たれた。「協力可能な分野から協力を進める」という ASEAN の行動原則は、ADMM プラスでも有効である。大国間競争の激化や ASEAN 内部の摩擦といった様々な困難を抱えつつも、ADMM プラスは ASEAN を核に日米中露が集う安保協力枠組みとして唯一のものであり、安全保障で ASEAN の中心性を保つ試みは続く。

## PROFILE

庄司 智孝 Tomotaka SHOJI

地域研究部長

専門分野：東南アジアの安全保障

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。  
NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。  
ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3260-3011

代 表：03-3268-3111（内線 29177）

防衛研究所 Web サイト：[www.nids.mod.go.jp](http://www.nids.mod.go.jp)

<sup>1</sup> 庄司智孝「ASEAN 政治安全保障共同体——多国間協力枠組みの発展と課題」『安全保障戦略研究』第 2 巻第 2 号（2022 年 3 月）133 頁。

<sup>2</sup> Prashanth Parameswaran, “China Blocked ASEAN Defense Meeting Pact Amid South China Sea Fears: US Official,” *The Diplomat*, November 4, 2015.

<sup>3</sup> MINDEF, Singapore, “ADMM-Plus Defence Ministers Commit to Multilateral Cooperation for a Peaceful and Stable Region at 10th ADMM-Plus,” November 16, 2023.